

《はじめに》

山形県内各地安管協議会会員の皆様、そして県安管ホームページをご覧の皆様、新年あけましておめでとうございます。

「とり」から「いぬ」へのバトンタッチです。

山形県安管協会ホームページは、今年も会員皆様の安全運転管理に役立つ情報の提供をして参りたいと思いますので、どうぞよろしくお願い致します。



## 「今年1年の無事故・無違反を誓い 安全運転を実践しましょう」

### ■三日坊主にならない工夫しよう

毎年、年頭には事故防止を誓う運転者の皆さんが多いと思います。神社などに安全運転祈願に行くと、なおさら意識が高まるでしょう。

しかし、こうした誓いの気持ちはともすれば三が日程度しか続かず、やがて忘れがちです。ですから、事故防止意識を維持できるように工夫しましょう。

たとえば、あるプロのタクシー運転者は毎年、新年の誓いを短冊に書いてダッシュボードに貼り付けています。それを運転前に見て「今日も安全運転で行くぞ」と気持ちを新にしているということです。



※ダッシュボードなどに目標を掲示しましょう

形式的な行為に見えても、毎日の習慣が力になります。ぜひ、実践しましょう。

### 【こんな目標が効果的です】

安全運転目標は、なるべく具体的で、自分が実践しようと感じる文章で書きましょう。以下は、実際にプロドライバーが記入した、安全運転目標の例です。

- ★日没30分前には、ライトオンします
- ★子どもとお年寄りには、絶対に譲ります
- ★運転中はスマートフォンを荷物にしまう
- ★いつも30分早く到着するつもりで出発

## 「今年1年の無事故・無違反を誓い 安全運転を実践しましょう」

### ●優良運転者の表彰

前年に無事故・無違反を達成した優良運転者を表彰し、安全運転の継続に対する動機づけを図る。

### ●事業所の安全目標を掲出

事業全体での安全目標を垂れ幕やのぼりなどにして、事業所の目立つ場所に掲出し、全従業員が一丸となって無事故・無違反に取り組む。

### ●事故防止の提案を募集

運転者から交通事故防止についての提案を募集し、採用した提案は速やかに実行に移す。

## コミュニケーションを活かした安全活動

### 「朝礼・点呼を管理者と運転者が話し合う場にする」

朝礼や点呼は、往々にして管理者が運転者に一方的に報告や指示をするだけに終始し、お互いの意思疎通が図れなかったり、運転者の参加意識が薄れがちになる。

朝礼・点呼時に、運転者が行う交通安全スピーチを話題として、管理者と運転者あるいは運転者同士がコミュニケーションをとっていくようにする。

## 事故の実態を踏まえた安全計画を立てよう

### ■交通事故の実態を分析する

新年に新しい安全運転管理計画や事故防止目標計画を立てる際には、2017年中に発生した交通事故や違反の実態をつかみ、その分析を踏まえて再発防止目標を立てましょう。

事故データの分析から事業所の運転者が犯しやすいミスや運行経路の特徴(経路上の問題点)、3H要素有無確認(始めて、久し振り、変更)、交通事故に結びついた違反の実態などを客観的に見る必要があります。

たとえば、業務中の出会い頭事故が多い事業所では、運転経験年数、交差点の形状、衝突前の携帯電話使用の有無など、細かく情報分析することで、教育対象とすべき運転者層や具体的な教育内容などが見えてきます。



山形県内の携帯電話使用中事故(H29.11末 26件内訳の特徴)

1 携帯電話使用目的別

使用目的	件数
通話目的	0
画像目的	14
ハンズフリー	0
その他動作	12

2 ドライバーの年代別

年代	件数
10代	4
20代	10
30代	8
40代	2
50代	2

3 通行目的

通行目的	件数
退社	8
買物	4
出勤	4
業務目的	3
訪問	3
観光・娯楽	2
ドライブ	1
私用その他	1

4 事故類型別

事故類型別	件数
追突	20
出会い頭	2
対歩行者	2
正面衝突	1
車両相互その他	1

5 発生時間帯

時間帯	件数
0時台	2
1時台	
2時台	
3時台	
4時台	
5時台	
6時台	
7時台	1
8時台	3
9時台	1
10時台	
11時台	
12時台	1
13時台	1
14時台	
15時台	3
16時台	
17時台	2
18時台	3
19時台	4
20時台	3
21時台	
22時台	2
23時台	



上のグラフは、携帯電話使用中の交通事故の原因分析ですが、こうした実態を踏まえて次のような事故防止対策が立てられます。

- 追突事故惹起者の原因分析時には携帯電話の使用履歴を必ず聞いておく
- 着信音が鳴るだけで事故に結びつく危険を周知し、運転中はドライブモードの設定とカバンの中などへの保管を義務づける
- 20代の運転者に対しては、2か月に1回など継続的に携帯電話の運転中の使用禁止を指導する
- マイカー通勤運転者に対しても、運転中の携帯電話使用について指導する

朝礼で活かす 故事・ことわざ集

「心ここに在らざれば、視れども見えず」

心が他のことにとらわれていると、見えているようで実際には見えていない、という意味。仕事や家族のことで悩んでいたたり、反対に非常に嬉しいことがあったときは、そのことに気を奪われて運転に集中できない。こういう状態のときは事故を起こしてしまう可能性が高いため、運転する際は気を引き締めよう。